

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500061		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター坂本 (1階 ササユリ ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市茄子川字坂本1499-33		
自己評価作成日	平成25年12月12日	評価結果市町村受理日	平成26年 4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2191500061-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年 1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. アクティビティを重視した取り組み。 ・入居者に生きいきと生活して頂けるよう様々な活動を提案。
2. 入居者を一人の人として尊重した介護の実践。 ・思いやりや丁寧な対応。
3. 地域の人や家族が気楽に立ち寄れる施設運営。 ・挨拶や丁寧な対応、地域への参加から開始。
4. 職員のレベルアップのための取組。 ・定期的な学習会やミーティングの実施。スタッフ同志のコミュニケーションの活性化。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の専門性を高める取り組みとして、職員勉強会を定期的に開催して認知症ケアについてホーム全体で向上させるよう取り組んでいる。 ホーム行事には家族を招き、利用者と共にホームで過ごす時間を作っている。新春の着物を着る会では、自宅から思い出のある着物を持ち寄り、着物を着て新年を祝っている。 利用者が発した会話から、取り組んだ事例もあった。「たづくりを作りたい」との声を受けて、おせち料理を作る際に、利用者から作り方を聞き、一緒に作っている。意向を実践することで、職員に新たな気づきが生まれ始めている。今後の活躍を心から応援したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①住み慣れた場所で安心して暮らして頂ける事を念頭に置き理念を作成している。 ②朝礼時に理念を唱和し、管理者が理念に基づいて実践出来るよう、毎朝指導を行っている。	住み慣れた場所で安心した暮らしを支えるために、ホーム全体の質の向上に取り組み始めている。職員全員が認知症を理解できるように、勉強会を定期的開催して知識を高めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①地域の活動に参加している。 ②運営推進会議に、地区区長、民生委員の参加をお願いしている。 ③施設行事に近隣の方の参加を呼び掛けたり見学会を実施した。 ④地元小学校との交流を実施している。	ホームに児童が来訪したり、利用者が運動会に見学に出かけるなど、地域の小学校と交流が深まりつつある。お祭りを開催するにあたり、地域に広報活動を実施した結果、地域住民の参加があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①地域の活動に参加し、当施設の内容や取組、相談事の受付などを説明している。 ②「ニチイ祭」の時、見学会やケアマネによる相談会を実施した。 ③市主催の「福祉祭り」に参加し、施設のアピールを実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①2か月に1度、欠かさず実施している。 ②活動報告書や写真集でサービス内容を説明している。 ③「ニチイ通信」を作成し、欠席者に配布している。 ④施設での取組内容の説明、認知症に関する勉強会などを行っている。 ⑤意見が出し易い雰囲気作りに努めている。	家族の参加も多く、地域や行政と共にホームの運営について具体的な話し合いが行われている。会議の中で、認知症についての勉強会を開くなど、認知症についての啓発も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①管理者が自治体を訪問し、情報交換などを行っている。 ②軽微な事故等でも報告を行っている。 ③中津川市のグループホーム部会の活動を通して、市の担当者との交流を図り、情報交換や指導を仰いでいる。同部会の勉強会などにも協力をお願いしている。	運営推進会議で、介護保険や職員体制・職員確保などを相談している。市のグループホーム協議会では、市・担当者との情報交換会があり、職員が参加している。	地域密着型サービスについては、行政によって方針が様々である。市の方針を情報収集し、ホームが活用できる支援や還元できる支援を分析することも重要な課題といえよう。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束に対する社内マニュアルを利用して定期的に勉強会を実施している。 ②夜間以外は施錠を行っておらず、1階、2階を自由に行き来して頂いている。 ③不安定な方に対しても、極力薬に頼らないケアを実施していけるよう考えている。	転倒事例などから、運営推進会議で居室内での転倒を心配する声が上がっている。ホームとしては、身体拘束の弊害を理解したうえで、安全面についての取り組みを報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①社内の虐待防止マニュアルを利用し定期的に勉強会を実施している。 ②スタッフによる、入居者の身体や精神状況の観察、報告などを通して、虐待防止と早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①基本的な考え方や知識を、勉強会や日常の業務を通して理解し実践できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約や解約時には、管理者が重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間をかけ説明し、理解を頂いている。 ②特に、疑問や不信感などを持たれる事がないよう親切、丁寧をモットーとして説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①顧客満足度調査を実施し、家族の意見、要望を把握し、改善内容を報告している。 ②面会時等において、出来る限り家族と対話し、状況説明やヒヤリングを行っている。 ③入居者の要望を家族に伝え、実現できるよう努めている。	法人が満足度調査を実施しており、家族の意向・要望を把握する機会がある。家族アンケートでは、「温かい雰囲気である」等の声があった。反面、「お風呂の回数を増やしてほしい」等、具体的な意見もあった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①センター長による個別面談を実施し、職員の意見や想いを聞き、対策を講じた。 ②毎月開催される業務ミーティング時において、自由な意見交換を実施している。 ③スタッフ同志が書いている「連絡ノート」などに管理者が目を通し、内容を把握するよう努めている。	管理者による個別面談があり、職員の意見や相談を把握する機会がある。家族介護をしつつ就業している職員には、シフト配置などに職員の要望を聞いて計画するなど、働きやすい職場環境に向けた配慮がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①毎月の職場訪問や会議への参加を心がけている。 ②勤怠を管理指導する中、時間外労働の把握をし法令遵守のみではなく、職員の健康面にも気をつけながら職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①新入社員は、支店に於いて新人研修が行われ、他職員についても、テクニカル研修が逐次行われている。 ②月1回勉強会を行い、社外の研修についても随時情報提供し、希望者には参加を呼び掛けシフトを配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①中津川市グループホーム部会に参加し情報を共有し、グループホーム部会主催の研修会にスタッフも参加している ②外部講習会の情報を通達し、参加を呼び掛けている ③グループ企業内の他事業所とのネットワークづくりは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①可能な限り入居前に施設の見学をして頂き、納得してから入居して頂くようにしている。 ②入居当初の不安や戸惑いを理解し、きめ細かい対応が出来るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①入居に当たり、家族のニーズは何であるか、色々な切り口から情報を得て把握するよう努めている。 ②家族の想いをよく聴き、受け入れるよう努めている。 ③家族が、「ここに入居させれば安心だ」と思えるよう、色々な情報提供を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①初期情報を基に、家族の事情や入居者の状況を理解しサービスへ反映させるようにしている。 ②特にグループホームとしてやるべき事、出来る事は何かを判断しながら対応している。 ③医療面は提携医と相談しながら対処している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①施設は入居者の生活の場であり、主体者である。様々なアクティビティを通して、生活を実感出来るように努めている。 ②「ケアされるケア」の実践として、色々な事を教えてもらったり、相談したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①今年の「ニチイ祭」において、家族が早くから来てくれ、料理作りなど自主的に手伝ってくれ、とても良い雰囲気が出来た。これを教訓に、家族は支援されるだけの立場ではなく、一緒に支援していく立場である事を伝えて行くと共に、様々な機会を通して実践していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①面会の少ない家族や、入居者の要望から家族に連絡し、面会や一時帰宅の相談を行っている。 ②暑中見舞いや年賀状を家族宛てに出すと共に、家族からも出してもらえよう願っている。 ③家族との面会を、状況を判断しながら、場所や雰囲気などに配慮している。	美容院や墓参りが、家族の協力を得て実現している。正月に「着物を着る会」があり、家族の協力で自宅から着物の持ち込みがあった。昔着物を着ていた利用者は、自ら着付けをして懐かしい思い出を語っている。	介護記録に、会話した内容や利用者の表情など、具体的な記録が充実すれば、介護計画立案に役立つであろう。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①一人ひとりの性格や相性、活動内容などを判断しながら席を考え、臨機応変に対応している。 ②入居者同士が口論などにならぬよう、職員が間に入るようにしている。 ③入居者の本音を理解して職員が対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①入院による退去の場合、家族のフォローとして併設している居宅介護のケアマネと協力して対応している。 ②他施設への転居の場合(2件発生)、出来る限りの情報提供や協力を行い、家族の負担軽減に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①自分の意思を言える入居者とは、個別に話を聞くようにしている。 ②生活の中で、ふと洩らされた言葉などを記録に残し共有するようにしている。 ③表面だけではなく、心の底にあるものをくみ取り、プランに反映するよう心掛けている。	日々の生活の中で利用者の声を聞き、日常の支援に取り入れている。聞き出した利用者の声を、「介護記録」や「申し送りノート」に記録する工夫が始まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①初期情報の内容だけでは生活歴を全て把握する事は難しく、家族もあまり多くは語ろうとしない傾向にある。散歩に出た時や入浴時などスタッフと二人になった時は昔の生活ぶりを話す事が多いので、その機会を大切にするように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①入居者の生活の証として介護記録を作成し、情報収集と共有を行っている。 ②特に体調の変化などについては、申し送りを確実にし、適切な対応が行えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①今年から、月に一度の業務ミーティングを、同じフロアのスタッフが同時に集まるように変更し、ケアカンファレンスを開催し意見交換の場を設ける事が出来た。 ②計画作成毎にアセスメントの見直しを行い、課題を分析しながら計画を作成している。	職員ミーティングでは、各ユニットの職員全員が集まり、利用者ごとの介護方針について話し合っている。介護支援専門員が家族から意見を聞き、介護計画に反映させている。	目標設定をさらに具体化する工夫があれば、計画に携わる関係者の支援が明確になるであろう。今後の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日常生活や排泄、水分、バイタル等の記録は介護日誌に記入している。 ②体調の変化等の伝達事項は業務日誌に記入して申し送りを実施。 ③各記録等は出勤時に確認し捺印するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①様々なニーズに対して柔軟に対応するため、グループ企業の他のサービス(デイサービス)などと連携して交流を図ったり、ニチイとしての総合力を活用して、サービスの多機能化に貢献していきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①地域の様々な活動に参加させて頂き、情報収集や当ホームの存在をアピールしている。 ②地元消防署の協力を得て避難訓練を実施すると共に、地区の集会等で、災害発生時の協力をお願いなどもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①かかりつけ医は家族の自由意思としている。 ②提携医には2週間に一度の往診をお願いしている。 ③夜間、休日も、直接電話連絡をさせて頂き指示を仰ぎ、早い対応を心がけている。	体調不良時に、ホームの協力医であるに対応が早いという利点があり、これまでのかかりつけ医を協力医に変更する事例が多い。家族が付き添い受診した場合は、結果を聞いて支援経過記録に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①看護職は居ないが、相談事は提携医の看護師さんに休日も含め連絡を取れるようにしている。 ②併設されている居宅介護支援事務所のケマネさんが元看護師なので、簡単な相談は聞いて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時には介護サマリーで情報提供を行っている ②入院した場合は管理者などが病院を訪れ、家族の要望や病院関係者への情報提供などの協力を実施している。 ③入院中は定期的に面会を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①グループホームとしてお世話出来る限界や、医療的支援への転換時期などを見極めた上で、家族に相談、説明を行い、納得の上で入院や退所の判断をして頂いている。 ②本人様のみならず、他の入居者様への影響も考慮して判断している。	入居時に、ホームの医療行為や終末期についての指針を説明し、家族から了承を得ている。運営推進会議で、延命や重度化について話題が上がり、ホームの方針を説明している。家族からは「どこまでみてくれるのか」等の質問をうけ、個別に話をしている。	終末期についての家族の意向は、利用者の状態によって変化することも少なくない。個別に終末期の希望について聞き取り、情報共有する仕組みの構築が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①地元消防隊の協力を得て、救急処置訓練を実施した。 ②勉強会において、緊急時の連絡方法、処置について指導をおこなった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①避難訓練を年2回実施している。 ②防災セット、避難用グッズ、非常食を保管している。 ③地域の避難場所の確認を実施した。地域への協力もお願いしている。	定期的に避難訓練を実施し、夜間想定訓練では2階の利用者は階段を使って屋外に避難した。消防立ち合いの際、AEDを使い蘇生の訓練も体験した。町内の合同避難訓練では、18名の高齢者の存在を伝えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①勉強会や毎日の朝礼などを通して「接遇マナー」の周知を図っている ②丁寧な言葉づかいや説明、居室への入室許可の確認、上から目線や命令口調にならぬ事などを特に注意している。	「接遇マナー」研修がある。利用者へは温かみのある言葉で声をかけ、安心感を与えている。利用者個々の好きなことを大切にしたいとの思いから、本人の趣味や故郷の情報を収集し、支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①全ての行動に対し「～して下さい」のように命令にならぬよう「～されますか?」「～して頂いて宜しいですか?」と自己決定が出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①職員には、その日の業務が優先ではなく、入居者の意向を優先させるよう指導している。 ②自分から言えない方に対しては、こちらから提案して活動などに参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①ピケ剃りや整髪、洗顔等はやれる方は自分でやって頂き、やれない方はお手伝いしている ②理美容は2か月に一度外部から訪問してもらっている。 ③着替えなどは、なるべく本人が同行もしくは自分で用意してもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①生協の注文シートと一緒に見て注文したり、新聞折り込みなどで食べたい物を選ぶなどしている。 ②年間を通して、季節を感じられるような料理やお菓子などを提案して実施している。(朴葉寿司、おはぎ、五平等) ③食後の食器拭きなどは交代でお願いしている。	利用者と担当職員とで献立の相談をしている。お正月には、「たづくりが食べたい」という声が上がリ、利用者に材料を聞き、利用者が調理する機会を設けている。家族を招いて食事会を開き、交流する機会となった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①日々の食事や水分量は介護記録に記して確認している。特に水分量は個別記録に目安の量を明示し毎日確認している。 ②月初に体重測定を行いグラフにして確認している。 ③その方の体型や習慣等を判断しながら食事や水分量は調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後、声掛けを行い全ての方が歯磨きを実施。 ②必要な方は説明や介助を実施している。 ③夜間、義歯の薬品洗浄や預かってお湯に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①現在、日中はオムツ使用は0、夜間のみ1名使用している(骨折のため起上り、歩行困難のため)ポータブルトイレの使用も0で、基本的に全員トイレにて排泄をしている。 ②介助の必要な方は定期的にトイレ誘導を実施。 ③今後は、夜間熟睡のため尿汚染が発生している人に対し、どのような対応が良いか検討していきたい。	夜間寝入ってしまい、尿汚染を不安に思っている利用者には、本人と相談して夜間帯のトイレ誘導の回数を決めている。これにより夜間の不安も解消し、睡眠も確保できた事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①便秘の把握のため、毎朝-2以上の方を申し送り時に報告している。 ②医師と相談の上、必要に応じて便秘薬を使っているが、基本的には自然排便を促すよう努めている。 ③水分量の確保、繊維質の接種、便の状態などの把握などの管理を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①基本的には週に2~3回入浴して頂いているが、希望される方や必要と判断される方にはその都度入浴して頂いている。 ②お湯は一人毎に入れ替え、気持ちよく入って頂けるよう配慮している。 ④男性スタッフ拒否の方は女性対応している。	定期的に入浴する機会を作っている。夏場汗が多い人、便で汚れた場合等、その時の状態に応じて入浴支援している。異性での介助を嫌う利用者には、同性で対応するなどの配慮がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①1日の大きな生活のリズムや昼夜逆転に配慮しながら、状況に応じた対応を実施(昼食後の昼寝や運動後や体調不良時の休憩等) ②起床や就寝時間も自由にして頂いており、入居者のペースを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①誤薬のないよう、セット時、服薬時、服薬後の三重チェックを実施。 ②服薬における体調変化の疑いのある場合は医師に報告し、中止等の措置を実施。 ③個々の服薬内容はファイルにまとめスタッフが確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①年間活動計画を作成し、毎月具体案を検討して実施している。 ②今年から、行事の実行委員を決め、より具体的に、充実した内容になるよう計画実行している。 ③今後は、個別の具体的な活動計画を作成していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①現状では、個別の外出は家族と一緒にやっている。 ②公園や花見、買い物などは、施設行事として行っている。 ③日常の散歩は、天候をみながら適時声掛けをしながら行っている。	日常的に、ホーム周辺へ散歩に出かけている。喫茶店やカラオケなどの外出も継続している。今年度は、全員での外出から、個別での外出に方針を変え、利用者の希望に合わせた支援が始まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①お小遣い金として1万円を預かっており、外出時の買い物等で好きな物を購入している。 ②物盗られ妄想や紛失に発展してしまう方については、家族や本人に説明納得して頂き、預かり証などを発行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①自宅に電話してほしいと言われる方については、事前に家族と打ち合わせや確認をして対応している。 ②写真入りの年賀状や暑中見舞い作成し、コメントを一言づつ書いて頂いた。 ③新年をホームで迎えられる入居者様宛に年賀状を出して頂くよう家族にもお願いした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共用部においては、あまり幼稚園的な飾り付けをしないで、大人の雰囲気を出すように配慮している。 ②入居者様に活けて頂いた花を飾り、季節感を感じられるようにしている。 ③行事の写真をパネルにして見て楽しんで頂くようにしている。 ④七夕やクリスマスなど、季節の行事の飾り付けを入居者様と一緒に楽しんでいる。	ユニット食堂横の畳部屋は昼寝ができるように簡易ベットがあり、他の利用者の気配を感じつつ休憩ができる。1階の庭デッキには日よけと椅子・テーブルがあり、喫煙する利用者の第2のリビングとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①共用部において、一人でいられるスペースはないが、仲の良い方同士で居室内で話されたりされている。 ②家族等の来訪時には居室でゆっくりとお話をして頂くよう配慮している。 ③共用の和室で昼寝やお茶会などを行ったが好評だった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①日中はフロアで過ごされる事が多く、居室はどちらかと言うと休む(寝る)ための場所となっている。 ②居室担当を決め、衣類の整頓などをお手伝いさせて頂いている。 ③布団をこまめに干して気持ち良く休んで頂けるようにしている。 ④状況の変化により、必要と判断された場合、安全確保のため持ち込まれたベッドを介護用ベッドに交換している。	たんすや一人掛けソファ、家族の写真、使い慣れた寝具やベットなど、思い出の道具をそろえ、家族の支援を受けて快適な住環境を作っている。衣替えの季節になると、居室担当が入替えを手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①建物内は全てバリアフリーとなっており、手摺も随所に配置されている。 ②各居室に花を飾った表札を取付け自室を確認出来るようにしている。 ③トイレの扉にはその旨表示がされて場所を認識されている。大半の方が自分の使用するトイレを決めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500061		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター坂本 (2階 モクレン ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市茄子川字坂本1499-33		
自己評価作成日	平成25年12月12日	評価結果市町村受理日	平成26年 4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500061-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年 1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. アクティビティを重視した取り組み。 ・入居者に生きいきと生活して頂けるよう様々な活動を提案。 2. 入居者を一人の人として尊重した介護の実践。 ・思いやりや丁寧な対応。 3. 地域の人や家族が気楽に立ち寄れる施設運営。 ・挨拶や丁寧な対応、地域への参加から開始。 4. 職員のレベルアップのための取組。 ・定期的な学習会やミーティングの実施。スタッフ同志のコミュニケーションの活性化。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①住み慣れた場所で安心して暮らして頂ける事を念頭に置き理念を作成している。 ②朝礼時に理念を唱和し、管理者が理念に基づいて実践出来るよう、毎朝指導を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①地域の活動に参加している。 ②運営推進会議に、地区区長、民生委員の参加をお願いしている。 ③施設行事に近隣の方の参加を呼び掛けたり見学会を実施した。 ④地元小学校との交流を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①地域の活動に参加し、当施設の内容や取組、相談事の受付などを説明している。 ②「ニチイ祭」の時、見学会やケアマネによる相談会を実施した。 ③市主催の「福祉祭り」に参加し、施設のアピールを実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①2か月に1度、欠かさず実施している。 ②活動報告書や写真集でサービス内容を説明している。 ③「ニチイ通信」を作成し、欠席者に配布している。 ④施設での取組内容の説明、認知症に関する勉強会などを行っている。 ⑤意見が出し易い雰囲気作りに努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	①管理者が自治体を訪問し、情報交換などを行っている。 ②軽微な事故等でも報告を行っている。 ③中津川市のグループホーム部会の活動を通して、市の担当者との交流を図り、情報交換や指導を仰いでいる。同部会の勉強会などにも協力をお願いしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束に対する社内マニュアルを利用して定期的に勉強会を実施している。 ②夜間以外は施錠を行っておらず、1階、2階を自由に行き来して頂いている。 ③不安定な方に対しても、極力薬に頼らないケアを実施していけるよう考えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①社内の虐待防止マニュアルを利用し定期的に勉強会を実施している。 ②スタッフによる、入居者の身体や精神状況の観察、報告などを通して、虐待防止と早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①基本的な考え方や知識を、勉強会や日常の業務を通して理解し実践できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約や解約時には、管理者が重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間をかけ説明し、理解を頂いている。 ②特に、疑問や不信感などを持たれる事がないよう親切、丁寧をモットーとして説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①顧客満足度調査を実施し、家族の意見、要望を把握し、改善内容を報告している。 ②面会時等において、出来る限り家族と対話し、状況説明やヒヤリングを行っている。 ③入居者の要望を家族に伝え、実現できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①センター長による個別面談を実施し、職員の意見や想いを聞き、対策を講じた。 ②毎月開催される業務ミーティング時において、自由な意見交換を実施している。 ③スタッフ同志が書いている「連絡ノート」などに管理者が目を通し、内容を把握するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①毎月の職場訪問や会議への参加を心がけている。 ②勤怠を管理指導する中、時間外労働の把握をし法令遵守のみではなく、職員の健康面にも気をつけながら職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①新入社員は、支店に於いて新人研修が行われ、他職員についても、テクニカル研修が逐次行われている。 ②月1回勉強会を行い、社外の研修についても随時情報提供し、希望者には参加を呼び掛けシフトを配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①中津川市グループホーム部会に参加し情報を共有し、グループホーム部会主催の研修会にスタッフも参加している ②外部講習会の情報を通達し、参加を呼び掛けている ③グループ企業内の他事業所とのネットワークづくりは出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①可能な限り入居前に施設の見学をして頂き、納得してから入居して頂くようにしている。 ②入居当初の不安や戸惑いを理解し、きめ細かい対応が出来るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①入居に当たり、家族のニーズは何であるか、色々な切り口から情報を得て把握するよう努めている。 ②家族の想いをよく聴き、受け入れるよう努めている。 ③家族が、「ここに入居させれば安心だ」と思えるよう、色々な情報提供を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①初期情報を基に、家族の事情や入居者の状況を理解しサービスへ反映させるようにしている。 ②特にグループホームとしてやるべき事、出来る事は何かを判断しながら対応している。 ③医療面は提携医と相談しながら対処している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①施設は入居者の生活の場であり、主体者である。様々なアクティビティを通して、生活を実感出来るように努めている。 ②「ケアされるケア」の実践として、色々な事を教えてもらったり、相談したりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①今年の「ニチイ祭」において、家族が早くから来てくれ、料理作りなど自主的に手伝ってくれ、とても良い雰囲気が出来た。これを教訓に、家族は支援されるだけの立場ではなく、一緒に支援していく立場である事を伝えて行くと共に、様々な機会を通して実践していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①面会の少ない家族や、入居者の要望から家族に連絡し、面会や一時帰宅の相談を行っている。 ②暑中見舞いや年賀状を家族宛てに出すと共に、家族からも出してもらえよう願っている。 ③家族との面会を、状況を判断しながら、場所や雰囲気などに配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①一人ひとりの性格や相性、活動内容などを判断しながら席を考え、臨機応変に対応している。 ②入居者同士が口論などにならぬよう、職員が間に入るようにしている。 ③入居者の本音を理解して職員が対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①入院による退去の場合、家族のフォローとして併設している居宅介護のケアマネと協力して対応している。 ②他施設への転居の場合(2件発生)、出来る限りの情報提供や協力を行い、家族の負担軽減に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①自分の意思を言える入居者とは、個別に話を聞くようにしている。 ②生活の中で、ふと洩らされた言葉などを記録に残し共有するようにしている。 ③表面だけではなく、心の底にあるものをくみ取り、プランに反映するよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①初期情報の内容だけでは生活歴を全て把握する事は難しく、家族もあまり多くは語ろうとしない傾向にある。散歩に出た時や入浴時などスタッフと二人になった時は昔の生活ぶりを話す事が多いので、その機会を大切にするように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①入居者の生活の証として介護記録を作成し、情報収集と共有を行っている。 ②特に体調の変化などについては、申し送りを確実にし、適切な対応が行えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①今年から、月に一度の業務ミーティングを、同じフロアのスタッフが同時に集まるように変更し、ケアカンファレンスを開催し意見交換の場を設ける事が出来た。 ②計画作成毎にアセスメントの見直しを行い、課題を分析しながら計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日常生活や排泄、水分、バイタル等の記録は介護日誌に記入している。 ②体調の変化等の伝達事項は業務日誌に記入して申し送りを実施。 ③各記録等は出勤時に確認し捺印するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①様々なニーズに対して柔軟に対応するため、グループ企業の他のサービス(デイサービス)などと連携して交流を図ったり、ニチイとしての総合力を活用して、サービスの多機能化に貢献していきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①地域の様々な活動に参加させて頂き、情報収集や当ホームの存在をアピールしている。 ②地元消防署の協力を得て避難訓練を実施すると共に、地区の集会等で、災害発生時の協力をお願いなどもしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①かかりつけ医は家族の自由意思としている。 ②提携医には2週間に一度の往診をお願いしている。 ③夜間、休日も、直接電話連絡をさせて頂き指示を仰ぎ、早い対応を心がけている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①看護職は居ないが、相談事は提携医の看護師さんに休日も含め連絡を取れるようにしている。 ②併設されている居宅介護支援事務所のケアマネさんが元看護師なので、簡単な相談は聞いて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時には介護サマリーで情報提供を行っている ②入院した場合は管理者などが病院を訪れ、家族の要望や病院関係者への情報提供などの協力を実施している。 ③入院中は定期的に面会を行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①グループホームとしてお世話出来る限界や、医療的支援への転換時期などを見極めた上で、家族に相談、説明を行い、納得の上で入院や退所の判断をして頂いている。 ②本人様のみならず、他の入居者様への影響も考慮して判断している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①地元消防隊の協力を得て、救急処置訓練を実施した。 ②勉強会において、緊急時の連絡方法、処置について指導をおこなった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①避難訓練を年2回実施している。 ②防災セット、避難用グッズ、非常食を保管している。 ③地域の避難場所の確認を実施した。地域への協力もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①勉強会や毎日の朝礼などを通して「接遇マナー」の周知を図っている ②丁寧な言葉づかいや説明、居室への入室許可の確認、上から目線や命令口調にならぬ事などを特に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①全ての行動に対し「～して下さい」のように命令にならぬよう「～されますか?」「～して頂いて宜しいですか?」と自己決定が出来るように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①職員には、その日の業務が優先ではなく、入居者の意向を優先させるよう指導している。 ②自分から言えない方に対しては、こちらから提案して活動などに参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①ヒゲ剃りや整髪、洗顔等はやれる方は自分でやって頂き、やれない方はお手伝いしている ②理美容は2か月に一度外部から訪問してもらっている。 ③着替えなどは、なるべく本人が同行もしくは自分で用意してもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①生協の注文シートを一緒に見て注文したり、新聞折り込みなどで食べたい物を選ぶなどしている。 ②年間を通して、季節を感じられるような料理やお菓子などを提案して実施している。(朴葉寿司、おはぎ、五平等) ③食後の食器拭きなどは交代でお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①日々の食事や水分量は介護記録に記して確認している。特に水分量は個別記録に目安の量を明示し毎日確認している。 ②月初に体重測定を行いグラフにして確認している。 ③その方の体型や習慣等を判断しながら食事や水分量は調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後、声掛けを行い全ての方が歯磨きを実施。 ②必要な方は説明や介助を実施している。 ③夜間、義歯の薬品洗浄や預かってお湯に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①現在、日中はオムツ使用は0、夜間のみ1名使用している(骨折のため起上り、歩行困難のため)ポータブルトイレの使用も0で、基本的に全員トイレにて排泄をしている。 ②介助の必要な方は定期的にトイレ誘導を実施。 ③今後は、夜間熟睡のため尿汚染が発生している人に対し、どのような対応が良いか検討していきたい。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①便秘の把握のため、毎朝-2以上の方を申し送り時に報告している。 ②医師と相談の上、必要に応じて便秘薬を使っているが、基本的には自然排便を促すよう努めている。 ③水分量の確保、繊維質の接種、便の状態などの把握などの管理を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	①基本的には週に2~3回入浴して頂いているが、希望される方や必要と判断される方にはその都度入浴して頂いている。 ②お湯は一人毎に入れ替え、気持ちよく入って頂けるよう配慮している。 ④男性スタッフ拒否の方は女性対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①1日の大きな生活のリズムや昼夜逆転に配慮しながら、状況に応じた対応を実施(昼食後の昼寝や運動後や体調不良時の休憩等) ②起床や就寝時間も自由にして頂いており、入居者のペースを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①誤薬のないよう、セット時、服薬時、服薬後の三重チェックを実施。 ②服薬における体調変化の疑いのある場合は医師に報告し、中止等の措置を実施。 ③個々の服薬内容はファイルにまとめスタッフが確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①年間活動計画を作成し、毎月具体案を検討して実施している。 ②今年から、行事の実行委員を決め、より具体的に、充実した内容になるよう計画実行している。 ③今後は、個別の具体的な活動計画を作成していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①現状では、個別の外出は家族と一緒にしている。 ②公園や花見、買い物などは、施設行事として行っている。 ③日常の散歩は、天候をみながら適時声掛けをしながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①お小遣い金として1万円を預かっており、外出時の買い物等で好きな物を購入している。 ②物盗られ妄想や紛失に発展してしまう方については、家族や本人に説明納得して頂き、預かり証などを発行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①自宅に電話してほしいと言われる方については、事前に家族と打ち合わせや確認をして対応している。 ②写真入りの年賀状や暑中見舞い作成し、コメントを一言づつ書いて頂いた。 ③新年をホームで迎えられる入居者様宛に年賀状を出して頂くよう家族にもお願いした。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共用部においては、あまり幼稚園的な飾り付けをしないで、大人の雰囲気を出すように配慮している。 ②入居者様に活けて頂いた花を飾り、季節感を感じられるようにしている。 ③行事の写真をパネルにして見て楽しんで頂くようにしている。 ④七夕やクリスマスなど、季節の行事の飾り付けを入居者様と一緒に楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①共用部において、一人でいられるスペースはないが、仲の良い方同士で居室内で話されたりされている。 ②家族等の来訪時には居室でゆっくりとお話をして頂くよう配慮している。 ③共用の和室で昼寝やお茶会などを行ったが好評だった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①日中はフロアで過ごされる事が多く、居室はどちらかと言うと休む(寝る)ための場所となっている。 ②居室担当を決め、衣類の整頓などをお手伝いさせて頂いている。 ③布団をこまめに干して気持ち良く休んで頂けるようにしている。 ④状況の変化により、必要と判断された場合、安全確保のため持ち込まれたベッドを介護用ベッドに交換している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①建物内は全てバリアフリーとなっており、手摺も随所に配置されている。 ②各居室に花を飾った表札を取付け自室を確認出来るようにしている。 ③トイレの扉にはその旨表示がされて場所を認識されている。大半の方が自分の使用するトイレを決めている。		